

# 防災用自家発電設備の経年劣化 調査報告会が開催されました

内発協では、技術部が主体となり、平成23年5月～平成28年6月までの5年2か月の期間を費やして、「防災用自家発電設備の経年劣化調査」を実施してまいりました。5年余りの長期間にわたり、「経年劣化調査専門委員会」を15回開催し、その調査結果の取りまとめとして、平成28年9月に最終報告書を発行しました。内発協では、このほど、その成果を書籍として公表したことから、最終報告会を大阪と東京で開催しましたので以下に報告いたします。

大阪会場は1月18日の午後に行行政等からの出席者も含め81名の方々に参加頂き、メルパルク大阪にて開催いたしました（写真2）。東京会場は1月23日の午後に行行政等からの出席者も含め97名の方々に参加頂き、メルパルク東京で開催いたしました（写真1、3、4）。両会場とも報告会では内発協会長挨拶（写真1）に引き続き、以下の報告内容に従い、内発協の技術部により2時間の報告が行われました。



写真1 あいさつする森信昭・会長（東京会場）

## 報告内容

1. 自家発電設備の経年劣化調査概要
2. 自家発電設備の経年劣化の実態と機能に及ぼす影響
  - a. 調査概要と調査地域
  - b. 点検整備実施有無の影響
  - c. 経年劣化実機調査結果の取りまとめ
3. 過去の自家発電設備の機能喪失事例
4. 自家発電設備構成部品が機能喪失に至る年数調査
5. 長時間無負荷運転による影響
  - a. ディーゼル機関
  - b. ガスタービン
6. ディーゼル機関の未燃燃料除去試験
7. 自家発電設備の機能喪失要因分析
8. 自家発電設備の機能維持のための保全について
9. まとめ

そのうち、東京会場では、自家発電設備の経年劣化調査概要の紹介の後、自家発電設備の経年劣化実態と機能に及ぼす影響について報告されました。具体的には、設置後15年以上経過した自家発電設備を主体として、点検整備がなされていた自家発電設備12件、点検整備記録が不詳である自家発電設備17件の調査結果について、主たる劣化状況と、点検整備の有無が自家発電設備の状態に



写真2 大阪会場



写真3 東京会場



写真4 自家発電設備の点検に関する説明（東京会場）

及ぼす影響が報告されました。

この結果から、点検整備の重要性和、点検に当たりどのような部位を重点的に点検すべきかなど、点検整備のポイントの紹介がありました。これに引き続き、自家発電設備の長時間無負荷運転による影響、機能喪失要因の分析結果などから機能維持のための保全について、調査結果などをもとに考察された分析結果が報告されました。

その後、質疑応答が行われました。

なお、内発協では、このほど、「防災用自家発電設備の経年劣化調査報告書」の販売を開始しました。通常価格4,500円（税別）、会員価格3,500円（税別）。